

I 研究の概要

1 研究主題・副題

主体的に学び合う子の育成

～「わかった!」「できた!」につながる探究的な授業を通して～

2 研究主題・副題設定の理由

本校では、令和3年度より、「わかった!」「できた!」につながる授業づくりを通して、「主体的に学び合う子の育成」に迫る校内研究を実践してきた。昨年度は、導入場面と学んだことを確かめる場面に重点をおき、一人一人が「わかった!」「できた!」に近づくための手立てを考えてきた。

成果として、「わからない」を共有し、協働的に解決に向かうためには、既習をふり返って見直しをもつことや、考えをもつ際に自己決定できる方法を取り入れること、全員が説明できるようにするための活動やアイテム化して「共通の言葉」を明確にすること、適用問題の時間を十分に設定することなどが効果的であるとわかった。

また、問いの文意を正しく捉えること、自分ごととして問いに向き合い解決すること、図・式を関連づけながら根拠や考えをもって思考・判断し、表現することが十分ではないことが課題である。さらに、日々の学習の様子や各学力調査等の結果から本校の児童には、読解力（PISA 調査の定義）に課題があると考えている。

それに対し、教師は以下のような願いをもっている。（昨年度アンケートより一部抜粋）

- ・自分たちで見いだした課題に向かって、自分たちで考え、活発に話し合いながら学びを深めていってほしい
- ・一人一人の意見を大切に聴いてほしい
- ・わからない子を放っておかず、自分ごととしてよく考え、みんなで「わかった!」「できた!」になろうとかかわり合う集団になってほしい

そこで、学習に主体的にかかわり、一人ではなく他者と関わりながら、自分なりに「わかった」「できた」と満足感を得られる姿を目指し、主題を「主体的に学び合う子の育成」とした。

一方、文部科学省では、想定よりも早い社会の技術革新の中で、次期学習指導要領改訂に向け中央教育審議会を行っている。より一段と「未来の創り手」の育成として教育に期待されることは大きい。現在の予測不可能な社会の中で生き合う力を育成するために、児童には、自ら課題を見つけ、情報を収集し、整理・分析し、それをまとめ・表現する力（PISA 調査の読解力と一部合致）が求められている。「何を学ぶか」はもとより、それ以上に「どのように学んだか」や「どのように生かすか」が重視され創造力の育成が求められている。この力こそ、探究的な学習を通して育まれる力であると考えている。

以上のことから、副題「～「わかった!」「できた!」につながる探究的な授業を通して～」を設定し、自分ごとの学び、自分の学び方、自分ができることを見だし、「わかった!」「できた!」を体験することで自己肯定感や自己有用感を高め、より一層主体的に学習に臨む児童を育てていく。

<主体的に学び合う子>

低学年	友達の考えを受け止め、温かく反応する子
中学年	友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、自分の言葉で説明する子
高学年	友達と考えを交流する中で、自分の考えを見直し、よりよい考えを構築する子
特別支援	自分と友達の考えのちがいに気付き、友達の考えを受け止めたり、理解しようとしたりする子

3 研究の仮説

学び合いができる温かい学級の中で、学びを支える学習基盤づくりとともに、探究的な学習スタイルである「自分ごととして課題（問題）を設定」、「情報収集、整理分析」、「まとめ・表現する」ことで課題（問題）解決し、「わかった!」「できた!」感が得られる授業を行う。そうすれば、学ぶことへの喜びや自信が自己肯定感や自己有用感に変わり、それが学習意欲につながることで、「主体的に学び合う子」に迫ることができるだろう。

4 研究の方向性

本校は、令和7年度・8年度の2年間、金沢市の新金沢型学校教育モデル実践推進事業の推進校の指定を受け、研究に取り組んでいく。特に本校では「3：7理論」を押野小スタイルとし、本時内（ちょこたん）あるいは、本時全体（ほんたん）、単元全体（まるたん）で探究スタイルを行っていく。「3：7」理論とは、教師と児童で授業を進める場面：児童に委ねる場面が3：7になる授業構成の考え方である。これは、本時レベルでも3：7、単元レベルでも3：7で行い、児童が主体的に学習に臨めるような時間の確保と、教師は個にあった支援ができるという考えである。

令和7年度は、まずこの「3：7理論」の定着を図ることと、それぞれの教科等において、「ちょこたん」「ほんたん」「まるたん」を実践し、適切な「たん」をカリキュラムに位置づけていく。令和8年度は、「3：7」のそれぞれの部分の質の向上につなげ、授業づくりや教師の役割（指導と支援）を明確にし、押野小スタイルが金沢探究スタイルに一石を投じるよう研究を進めていく。

5 研究の重点 「わかった!」「できた!」につながる授業づくり

児童が「わかった!」「できた!」を実感するためには、探究的な学びによる授業が大切である。その際、すべてを児童に託すのではなく、「3：7」の「3」の場面においては、教師の意図的・計画的な指導支援が不可欠である。また、児童に委ねる「7」場面においても、教師の意図的な児童の支えが必要で、これまで行ってきた「指導と評価の一体化」を意識し、それを有効に活用していくことで、探究的な学習を展開することにつなげていく。

また、本校の課題改善として、特に「3」の場面では、読解力の向上を目指していく。狭義の「読み取る力」ではなく、資料やデータ、絵や表現等を「何かとつなげて読み解く力」と捉え、金沢ベーシックカリキュラムにおける「Rタイム」を意識した手立てを積極的に取り入れていく。

重点1：課題・問題を自分ごととして捉え、課題・問題解決に向かう探究的な学習の充実

「自分はどうか」「自分はどうか」「自分に何ができるか」という視点を基盤とし、探究の過程を構成する4要素（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）の一部分、または全部を児童が主体的な学びになるように、教科や単元に応じた支援や手立てを考えていく。

課題設定

- ・学習対象や事象との出合わせ方、関わり方の工夫
- ・前時の学習や、既習事項との違いの明確化
- ・予想や仮説、学習計画を立て、学習の見通しをもつための工夫

情報収集

- ・目的や意図に応じた情報収集ができる環境を整える
- ・集めた情報を適切な方法で記録するための工夫

整理・分析

- ・収集した情報を、比較・分類・関連付けるための工夫
- ・活動の過程を振り返り、学びの方向性や目的を確認するための工夫

まとめ・表現

- ・相手や目的に応じた表現方法の選択
 - ・自己の成長が自覚できるための表現活動の工夫
- など

重点2：「わかった!」「できた!」を充実させるために読解力を育む

「金沢探究スタイル」に示されている、読解力における目指す児童の姿が追求できるよう、手立てを講じていく。その際、それぞれの教科や単元においてRタイムを重視し、何が読解力にあたるのかを明確にして取り組む必要がある。そして、どのように読み解いたか根拠をもって自分の考えを表出するようにしていく。

- ・自ら情報を集めて「なぜ?」を読み取るための工夫
- ・いろいろな情報を正しく読み取るための工夫
- ・情報をどのように受け止め、それを生かす工夫 など

6 探究スタイルの授業の流れ（指導案）イメージ図

①本時内に探究場面を設定（ちょこ探）

時	指導の流れ	支援・指導と評価
	1 課題を設定する	
	2 予想する（学習計画を立てる）	
	3 探究する（たんタイム）	
	①課題設定 ②情報収集	
	③整理・分析 ④まとめ・表現	
	4 まとめる	
	5 振り返る	

②本時が探究場面（ほん探）

時	指導の流れ	支援・指導と評価
	1 探究する（たんタイム）	
	①課題設定 ②情報収集	
	③整理・分析 ④まとめ・表現	
	2 まとめる	
	3 振り返る	

③単元が探究（まる探）

単元計画	
学習の流れ	
1 探究する（たんタイム）	
①課題設定	②情報収集
支援・指導と評価	支援・指導と評価
③整理・分析（本時）	④まとめ・表現
支援・指導と評価	支援・指導と評価
2 まとめる	
3 振り返る	



本時案

時	指導の流れ	支援・指導と評価
	1 探究する（たんタイム）	
	2 まとめる	
	3 振り返る	

7 研究構想図

研究主題

主体的に学び合う子の育成

～「わかった!」「できた!」につながる探究的な授業を通して～

1 「わかった!」「できた!」につながる授業づくり

研究の重点 学習指導の工夫

重点1：課題・問題を自分ごととして捉え、課題・問題解決に向かう探究的な学習の充実

課題設定

- ・学習対象や事象との出合わせ方，関わり方の工夫
- ・前時の学習や，既習事項との違いの明確化
- ・予想や仮説，学習計画を立て，学習の見通しをもつための工夫

情報収集

- ・目的や意図に応じた情報収集ができる環境を整える
- ・集めた情報を適切な方法で記録するための工夫

整理・分析

- ・収集した情報を，比較・分類・関連付けるための工夫
- ・活動の過程を振り返り，学びの方向性や目的を確認するための工夫

まとめ・表現

- ・相手や目的に応じた表現方法の選択
 - ・自己の成長が自覚できるための表現活動の工夫
- など

重点2：「わかった!」「できた!」を充実させるために読解力を育む

- ・自ら情報を集めて「なぜ?」を読み取るための工夫
 - ・いろいろな情報を正しく読み取るための工夫
 - ・情報をどのように受け止め，それを生かす工夫
- など

2 学びを支える学習基盤づくり

学習規律

(学習の構え・話す聞く)

基礎・基本

(学習ワーク・ドリルパーク)

家庭との連携

(家庭学習・生活習慣)

3 学び合う学習集団づくり

学び合いができる温かい学級づくり (生徒指導の4つの視点を生かした学級経営)

Ⅱ 研究の実際（公開研究発表時の実践）

第1学年1組 体育科学習指導案

- 1 単元名 走・跳の運動遊び 走の運動遊び「ほん探編」
～跳んで、かわして、走る！スーパーおしのブラザーズ！～

2 目標と評価規準

走の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、いろいろな方向へ走ったり、低い障害物を走り越えたりするなどの基本的な動きを身に付けるようにする。また、走の運動遊びを楽しく行うために、簡単な遊び方を工夫するとともに、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることなどができるようにする。

- 【 知・技 】 走の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりしている。
- 【 思・判・表 】 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。
- 【 態度 】 運動遊びに進んで取り組もうとし、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、場の安全に気を付けたりしている。

3 指導にあたって

(1) 学習指導要領での位置づけ

第1学年C 走・跳の運動遊び

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。
ア 走の運動遊びでは、いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりすること。
イ 跳の運動遊びでは、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすること。
- (2) 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすること。

(2) 児童について

	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない
体育の授業は好きですか。	20	8	3	4
体育の授業で「わかった!」「できた!」と感じていますか。	15	14	4	2
友達と一緒に体を動かすことは好きですか。	20	8	2	5
友達と話し合って課題を解決していくことは好きですか。	14	11	6	4

(3) 研究主題に迫るための手立て

ア. 重点① 課題・問題を自分ごととして捉え、課題・問題解決に向かう探究的な学習の充実

課題設定

- ・学習対象や事象との出合わせ方、関わらせ方の工夫

単元の初めには、用具の並べ方次第で、様々な障害物のコースをつくることができることを知り、方向を変えて走ったり跳んだり様々な動きで越えていくことの楽しさを実感させたい。その際に、どんなコースが楽しいと感じたか問うことで、「物を避けながら方向を変えて走る楽しさ（くねくねコース）」「リズムよく物を跳び越えて走る楽しさ（ぴよんぴよんコース）」「難しいけど挑戦する楽しさ（どきどきコース）」といったように、走る楽しさを言語化していく。本時では、自分だけでなく友達にも楽しいと思ってもらえるようコースを工夫してつくる活動を行うので、どんなコースをつくるのか、上記の楽しさから選択させ、目的をもってコースづくりを行えるようにしたい。

情報収集

- ・自分事として課題に向き合い、グループで試行錯誤するための工夫

一人一人が自分事として課題に向き合うことができるよう、前時までに自分がつくりたいコースについて考えをもち、伝え合い、一人一人の考えたコースをグループ内で試す時間を設ける。その上で、目的に合ったコースになるように、友達の意見にも耳を傾け、考えが違っても寄り添いながら、使う用具や並べ方を相談することを大切にしたい。また、使いたい用具が使えなかったとしても、代わりを考えて試行錯誤する姿を認め、広めていく。コースづくりでは、自分たちで試し、話し合い、再度見直してつくるという流れで活動を行う。使う用具や数、用具の間隔などの話し合いの視点をもたせ、目的のコースになっているかグループみんな考えていく力を付けたい。

イ. 重点② 「わかった!」「できた!」を充実させるために読解力を育む

- ・他者に考えを伝えたり、他者の考えを読み取ったりするための工夫

他のグループのコースを走った後に、走ったコースについてどう感じたかシールを貼って評価をし合う。評価の項目は「くねくね走れて楽しかった」「リズムよくぴよんぴよん走れて楽しかった」「どきどきして楽しかった」といったように、走る楽しさを言語化したものとする。シールを貼ることで、最後のふり返りでは、ただ「楽しかった」だけでなく、「～だから楽しかった」と理由を伝える助けになると考える。そして、自分たちが作ったコースは他の友達にとってどうだったかが視覚的にもわかることで、達成感を得られ、振り返りにつなげられるようにしたい。

4 単元計画（全5時限）

	主な学習内容	評価
課題設定	① <どんな学習をするのかな> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">曲がったりジャンプしたり、いろいろな物があるコースを走ると楽しいな。安全に気をつけて走ることができたよ。</div> 学習問題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">跳んで・かわして・走る！みんなの“楽しい”を集めておしのワールドをつくろう</div> 学習計画 1 いろいろな物を並べたコースを走る 2 どんなコースが楽しいか見つける 3 楽しそうなコースを考えてつくる 4 もっとみんなが楽しめるコースをつくる 5 おしのワールドをつくってみんなで走る	態
追究	① <どんなコースが楽しいかな> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">リズムよくぴよんぴよん跳び越えられるコースが楽しかったよ。かわしてくねくね走るコースが楽しかったよ。難しくてどきどきするコースもあったよ。</div>	知

追究	② <どんなコースをつくりたいかな> ぴよんぴよん跳べるのが楽しいから、ケンステップを使いたいな。くねくねコースにしたいから、なわとびで大きな川を作りたいな。安全も大切だね。	思
R タイム	③ <もっとみんなが楽しめるコースにするには> . . . 本時 ぴよんぴよん・くねくね・ときどき楽しいコースになるように、物の並べ方を変えたり、物を増やしたりして、コースをレベルアップさせることができたよ。	思
ま と め る	① <おしのワールドをみんなで跳んで、かわして、走ろう> どんなコースでも跳び越えたり、かわしたりして、走ることができたよ。みんなで力を合わせて楽しいコースをつくることができたよ。	態 知

5 本時の学習（追究3時）

(1) ねらい みんなが楽しめるコースになるように、走ったり跳んだりするコースを工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。(思考力・判断力・表現力等)

(2) 学習過程

時間	主な学習活動と児童の思考の流れ	支援・指導と評価
5 33	<p>1. 準備, 準備運動をする</p> <p>2. 探究する (たんタイム)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達にたくさん跳んでもらえるコースをつくりたいな リズムよく跳べるのが楽しいから、ケンステップを使いたいな くねくねコースにしたいから、なわとびで大きな川を作りたいな </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> コーンを置いてぴよんぴよんコースを作ろう 試してみたら走りにくいと感じたよ もっと間を広げて置いたらどうかな 小さいコーンじゃ簡単だから大きいコーンにしたらどうかな </div> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><もっとみんなが楽しめるコースにするには></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> コース名は～にしよう ～コースはかわして走るといいのかな 他のグループの～コースはぴよんぴよん走れて楽しいな 一回目はうまくいかなかったからまた～コースで挑戦したい </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ～コースは、コーンがきれいに並んでいて、リズムよくぴよんぴよん走れて楽しかったよ 自分たちのコースはぴよんぴよん楽しいにたくさんシールを貼ってもらえたから、うまくいったね </div> </div>	<p>課題設定</p> <p>① 走る楽しさを言語化し、掲示に残しておくことで、どんな楽しいコースにしたいか目的をもってコースづくりができるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全なコースになるように、高さや使い方のルールを確認する <p>情報収集</p> <p>① グループで考えるために、つくる→試す→話し合う→見直すという流れでコースづくりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までのコースを写真で記録しておき、考えがもてない児童には、選べるようにする <p>② コースについてどう感じたかが視覚的にわかるように、走ったコースにシールをはって評価する</p>

2	<p>3. まとめる</p> <p>ぴよんぴよん・くねくね・どきどき楽しいコースになるように、物の並べ方を変えたり、物を増やしたりして、コースをレベルアップさせることができたよ。</p>	
3	<p>4. ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物の置き方を変えて、前より楽しいコースになったね ・自分たちのコースをみんなに楽しんでもらえてよかった ・他のグループの楽しいコースを見つけて走ることもできたよ 	<p>思・判・表</p> <p>もっと楽しいコースになるよう用具の並べ方を工夫し、試して走って、考えたことを伝えている。 (観察・発言・学習シート)</p>
2	<p>5. 片付けをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで物を運ぶことができたよ 	

6. 成果について

(重点①…①, 重点②…②, その他…◆)

学習活動	児童の様子 や 効果的な手立て・工夫	
1	準備運動や水分補給に BGM をかけることで楽しみながら自分たちで動くことができた	◆
2	走の運動遊びの楽しさを言語化し、学習目標に沿ったコースづくりを行った	①
	これまでのコースの写真を掲示しておくことで、児童が見たいタイミングで確認できた	①
3		
4	シールを使ってコースを評価し合ったことで、振り返りでも理由を話すことができた	②
5	制限時間のある BGM をかけることで協力して素早く片付けを行うことができた	◆

追究1時で、用具の並べ方（間隔や数）を変えると、コースの楽しみ方も変わってくることに気づかせ、その中でどんなコースが楽しいと感じたかを言語化した。児童の言葉をまとめ、「びよんびよん走れる楽しさ」「くねくね走れる楽しさ」「むずかしいけどどきどきする楽しさ」とし、本時ではこれらの楽しさを評価項目として、走ったコースにシールを貼った。課題設定では、児童にとってこれらの楽しさを目的としてコースをつくる意識が弱かった点が課題だが、整理・分析、まとめ・表現の段階では、シールを貼ることでそのコースの良さを考えることができ、振り返りでも走る楽しさを言葉にして、理由をつけて話すことができた。また、シールをたくさんもらえたことにより達成感も得られたようだった。

7. 課題について

(重点①…①, 重点②…②, その他…◆)

学習活動	改善に向けた課題	
1		
2	前時で作ったコースを写真に残しておき、比べられるようにする	①
	中盤の振り返りを入れ、再度コースを作り直すことができるようにする	①
	「跳」ではなく「走」の運動になるように、必要な場面で児童を集め、修正していく	①
3	シールの評価から、次につながるようにねらいに合わせた発問をする	②
4	振り返りを自分で動画に撮るなどすることで、読解力を見取る	②
5		

本時では、運動量を確保するため、グループで話し合いながらコースを作った後、時間を区切ってみんなにコースを走ってもらう（他のグループのコースを走る）という流れで学習を行った。しかし、本時のめあてである「もっとみんなが楽しめるコースにする」ために、他のグループのコースを走った後に、中盤の振り返りを入れ、再度自分たちのコースを見直すようにすると考えも深まっただろう。その際には、コースを作り変えたいと思った人は赤白帽子の色を変えるなど意志表示することで、「なぜコースを変えたいの?」といったねらいにせまる発問をすることもできたと考えられる。

また、本時ではシールを用いて評価し合うことで成果もあったが、シールでは良い評価項目しかなかったために、次につながりにくいという点もあった。シールの相互評価から、児童の「もっとよりよくしたい」という気持ちを引き出すために、評価項目を検討したり、発問をねらいにせまるものにしたりしていく必要があった。具体的には、グループで考えたコース名と評価されたシールの結果に違いがあったグループには、その思いと評価のずれに注目して作ったコースを振り返る発問をすることで、「もっとこうしたらよかった」といった次につながる振り返りを引き出すことができたと考える。

今後は教師の発話量も意識しつつ、必要な場面を見極め、ねらいに合わせた発問を精選していきたい。

第2学年3組 生活科学習指導案

1 単元名 あそんで作ってくふうして「ほん探編」

2 目標と評価規準

身近にあるものを使って遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、遊びや動くおもちゃをつくることのおもしろさ、身近にある物やおもちゃの動きの不思議さに気づくとともに、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうとする。

- 【 知・技 】①身近な物は、いろいろな遊びに利用できることに気付いている。
②遊びの楽しさや遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。
③約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。
④みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。
- 【 思・判・表 】①楽しみたい遊びを思い描きながら、遊びに使う物を選んでいる。
②予想したり、確かめたり、見直したりしながら、遊びに使う物をつくったり遊んだりしている。
③比べたり、試したり、見立てたりしながら、遊びを楽しんでいる。
④遊びの楽しさやルールなどを工夫しながら、遊んでいる。
⑤遊びを工夫したり、友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り、表現している。
- 【 態 度 】①みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。
②友達のよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。
③みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。

3 指導にあたって

(1) 学習指導要領での位置づけ

(6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

(2) 児童について

	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない
生活科の授業は好きですか。	13	7	1	1
自分で調べてみたいことをみつけていますか	8	10	2	2
生活科の授業で「わかった!」「できた!」と感じていますか。	7	12	3	0
自分の考えを書いたり表したりすることは好きですか。	13	7	2	0
友達と話し合っって課題を解決していくことは好きですか。	12	9	1	0
ふりかえりで「もっと〇〇したい」と考えていますか	12	9	1	0

(3) 研究主題に迫るための手立て

ア. 重点① 課題・問題を自分ごととして捉え、課題・問題解決に向かう探究的な学習の充実

課題設定

- ・児童の思いや願いを膨らませる単元構成の工夫

単元の「課題設定」では、様々な身近な物との出会いから想像の幅を広げさせていきたい。そして、それらを使った教師作のおもちゃで遊ぶことで、身近な物がどのようなおもちゃになったり、おもちゃの動力になったりしているかに気付かせていきたい。

「追究」では、おもちゃ作りを通してうまくいかない困り感から「もっとよくしたい」「もっと丈夫にしたい」という思いをもたせる。一人で黙々と思考を巡らせながら作業したり、お隣さんやグループや学級のみennaといった他者との関わりの中で伝え合ったり比べたりしていく中で、新たな気づきや願いから新たな問いへと思考を巡らせ、次の活動へとつなげたい。

「まとめる」では、せっかく自分が試行錯誤して作ったおもちゃなのでそれらで一年生や他学年に遊んでもらいたいという思いを持たせ、相手意識を持った活動を展開する。児童の「楽しく遊んでもらいたい」「わかりやすい場にしたい」「そのためにどうしたらいいか」といった児童の思いや願いを大切にしていきたい。

- ・学習対象や事象との出合わせ方、関わらせ方の工夫

おもちゃ作りを自分事として捉え、「やってみたい」「作ってみたい」「もっとよくしたい」という児童の好奇心や探究心を高めるために、自分たちで集めた材料で自由に遊ぶ時間を設けたり、自由にさわれる環境を用意したりし、素材の特性を十分に感じ、考えることができる環境を用意する。また、自分たちでおもちゃを作ってみた上で、「すぐにこわれてしまう」「動きが弱い」など困り感を共有し、「もっと丈夫にしたい」「もっと遠くに飛ばしたい」「もっと早く動くようにしたい」など課題解決に向かう意欲を高めたい。

情報収集

- ・目的や意図に応じた情報収集ができる環境を整える

作りたいおもちゃを決めたり、集めた材料で動くおもちゃを作ったりできるように、図書館司書と適時連携し、児童の実態に合わせた読み取りやすい資料の選択・提示をする。また、一人一人が資料に触れることができるよう、オクリンクプラスにも読み取りやすい資料を掲載し、閲覧できるようにする。

整理・分析 このやり方でいいのかな・もっといい方法はあるかな

- ・収集した情報を、比較・分類・関連付けるための工夫

実際に遊んでみて「これでは遊びにくい。もっとこうしたらいい」「すぐにこわれてつかいにくいから、こわれにくいとしたらいい」「もっと動いたらおもしろい」などの「もっとカード」を友達からもらう活動を設定する。集まったカードから自分の課題に合った情報を選ぶ際、「自分のおもちゃをもっとよくするため」や「〇〇に遊んでもらうためにどうするか」などの選択の視点を与え児童の思いがぶれないようにする。

まとめ・表現

- ・新たな疑問や学び方を生み出すための工夫

作ろうとするおもちゃの設計図、作ったおもちゃの写真と工夫・結果・ふりかえりをメモしたワークシートを蓄積・掲示することで、児童の思いを言語化・視覚化し思考のサイクルを回せるようにする。

イ. 重点② 「わかった!」「できた!」を充実させるために読解力を育む

- ・自ら情報を集めて「なぜ?」を読み取るための工夫

自分や友達が集めた材料を分析的・創造的に考えるために、実際に触ったり試したりできる場の設定をする。また、材料の特性、それを利用したおもちゃ動力に目を向けさせるため、教師が

作った動くおもちゃで遊ぶ活動を行う。その際「どうして動いているのかな?」「どうやって動くのかな?」などの発問を行い、「動力は何か?」「どんな材料でできているか?」など、遊ぶ活動を楽しみながら気づけるようにしたい。

・相手の思いを読み取るための工夫

相手のことを考え、優しくしたり、相手の思いを自分の思いとして受け止めたりするために、相手を意識した「おもちゃランド」を運営する活動を設定する。「〇〇は楽しんでくれるかな?」「〇〇が楽しめるためにはこんなコーナーにしようかな」など、誰のためにおもちゃランドを運営するのかを意識できるように相手意識を忘れないように視覚化し板書に位置づける。

4 単元計画 (全15時限)

	主な学習内容	評価
課題設定 Rタイム	① <どんなことができるかな?> 集めた材料でいろんなことができそうだな。 学習問題 あそび名人になろう! 学習計画 1 あそんでみる 2 おもちゃを作ってみる 3 もっとよくする 4 さいきょうにする	知①
	② <どうやって動いているのかな?> バネの力やゴムの力、風の力などいろいろな力で動いているのだな。	知② 思①
追究	①②<自分たちにもできるかな> 同グループ いろんなおもちゃを作ることができたよ。	思②③
	③ <もっとよくするには?> 異グループ あそんでみよう あそんでみたら、直したいところがたくさん見つかったよ。 ④ <もっとよくするためのアドバイス・改善点は?> もっとよくするアイデアを友達に伝えることができた。	態① 思④
まとめる Rタイム	⑤⑥ <もっとよくしていこう> もらったアイデアや自分や友達と考えてもっと良くすることができた。	知③ 思⑤
	① <できたおもちゃをどうしようかな> 〇〇にあそんでもらおう。 ② <どんなルールにしようかな> 異グループ あそんでみよう あそんでみたら、やりにくいところがたくさん見つかったよ。 ③ <もっと楽しめるおもちゃランドにするには?>・・・本時 〇〇にわかりやすいようにルールや場所を工夫することができた。	態② 思③ 思④
	④ <もっとよくしよう> もらったアイデアや自分や友達と考えてもっと良くすることができた。 ⑥⑦ <〇〇をご招待しよう> 〇〇がよろこんでくれてよかった。	知③④ 知④ 態③
	⑧ <あそび名人になれたかな> 集めた材料でおもちゃをつくれたし、喜んでくれる人もいてよかった。	態③

5 本時の学習（まとめる3時）

(1) ねらい 前時にした他のグループに遊んでもらう活動を通して、さらにうまくいくように会場を改良したり、楽しく遊ぶためのルールを考えたりしてみんなで楽しく遊べるように遊びを工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等の基礎)

(2) 学習過程

時間	主な学習活動と児童の思考の流れ	支援・指導と評価
30	<p>1. 探求する (たんタイム)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇が遊びやすくするにはどうしたらいいかな ・もっとわかりやすくしなきゃいけないな ・ルールを考えなくちゃ </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが書いてくれたカードはどうか？ ・作り方を見直そう ・材料を変えてみよう ・〇〇はどうしたらあそびやすくなるかな </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><もっと楽しめるおもちゃランドにするには？></p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのパワーアップにしようかな ・別のグループのやり方を取り入れてみようかな ・〇〇が楽しんでくれる遊び場になっているかな </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇が楽しめるようにパワーアップすることができたよ ・まだまだできそうだから、次はルールを考えたいな </div> </div>	<p>課題設定</p> <p>①もっとよくしたいという思いがわくように、前時に遊んだときの困り感を共有する</p> <p>情報収集</p> <p>①試行錯誤してよりよくできるように、材料コーナーとおたためしコーナーを設置する</p> <p>整理分析</p> <p>①なんのための改良なのかを見失わないようにするために、板書に位置づけ、適宜声かけをする</p>
5	<p>2. まとめる</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>もっと〇〇が楽しめるように、ルールや場所を工夫することができた。</p> </div>	
10	<p>3. ふりかえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇が楽しめるように、おもちゃの〇〇を変えて強くすることができた ・〇〇がこわしても気兼ねをしないように、たくさん予備を作ることができた ・〇〇が分かるように、ルールを見直して簡単にすることができた ・〇〇がわかりやすいように、遊び方の説明の看板を作ることができた ・どんなおもちゃか分かるように、絵を描くことができた 	<p>思・判・表</p> <p>さらにうまくいくように会場を改良したり、楽しく遊ぶためのルールを考えたりしてみんなで楽しく遊べるようにおもちゃや場を工夫している。(観察・写真)</p>

6. 成果について

(重点①…①, 重点②…②, その他…◆)

学習活動	児童の様子 や 効果的な手立て・工夫	
1	もっとカードで最初にグループで課題を共有・表出	①
1	材料コーナー, お試しコーナーと場の設定の工夫	②
1	もっとカードを基に, 体験・表現を繰り返して活動を発展させる	①
3	グループごとのふりかえりで一人ひとりの発話量の確保	①

授業の導入において, 前時に友達からもらったアドバイスカード「もっとカード」をグループで確認することで, その日の活動の軸をつくり, 共有することができた。途中, 違う活動に流れていく児童にも, 「もっとカード」を根拠に声かけをすると有効であった。また, 「もっとカード」に書いてあることを, 書いた友だちに確認しに行く姿が見られた。体験と表現を繰り返すことで気づきの質を高めることができた。「もっとカード」は先行して授業を行った1組, 2組での反省や気づきに基づき, ブラッシュアップすることができた。



「もっとカード」まなボードに挟むことで自由に書き込めるようにした

また, 材料コーナーに有り余るほどの材料を準備し, 違うグループの児童と交流できるお試しコーナー, 同じグループの児童と作る制作コーナーを作ったことで, 児童は「自分はどうしたいのか」材料や友だちと交流しながら自分事として考えることができた。

活動をふりかえる場面において, もっとカードにそったふりかえりをするので, 今日の活動が有意義であったかを児童に実感させることができた。また, グループで話すことで, 一人一人の発話量を確保することができた。

7. 課題について

(重点①…①, 重点②…②, その他…◆)

学習活動	改善に向けた課題	
1	相手意識が児童に落ちきれていなかった	②
1	子ども同士で相互評価を行う	①
3	他の班のふりかえりを聞く必要性が弱かった	①

自分のおもちゃを作り上げた段階で, そのおもちゃをどうしたいか児童に問うと「自分たちも去年2年生のおもちゃランドに遊びに行かせてもらったから, 1年生を招待したい」「壊されるからいやだ」などの意見が出た。どちらも自分のおもちゃを試行錯誤して失敗を繰り返しながら完成させたからこそその感想だと捉えることができる。「自分が楽しむ」から, 「他者が楽しむ」に意識を広げることで, 気づきの質を高め, 深い学びになることをねらい, 「おもちゃパーティ」を開催することにした。その際, 「1年生を招待する」ということは, 具体的にどのようなことに気をつけて「パーティ」の準備をしなければならないかを児童と共有したが, その押さえを本時ではしなかったため, 「漢字をよむことができないからひらがなで」「ルールをみじかく, かんたん」など具体的な1年生のためへの意識がぬけた活動になってしまった。相手の思いを読み取る読解力を身につける手立てをこれからも行っていく必要を感じた。

また, たんタイムの中で児童同士「これどう?」「もっとこうしたら?」「それでいいと思うよ?」などの相互評価を取り入れると, 児童が自信を持って探究活動を進めていくことができるのではないか, という助言をいただいた。これからは, 教師だけが評価をするのではなく, 児童同士の認め合いや励まし合いの活動を取り入れていきたいと思う。

第4学年1組 社会科学習指導案

1 小単元名 広い台地に水を引く「まる探編」

2 目標と評価規準

県内の先人の働きについて、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現することを通して、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

- 【 知・技 】①当時の世の中の課題や人々の願いなどについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を理解している。
- ②調べたことを年表や文などにまとめ、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。
- 【 思・判・表 】①当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、問いを見出し、地域の発展に尽くした先人の具体的事例について考え表現している。
- ②先人の働きと地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて考え、適切に表現している。
- 【 態 度 】①県内の先人の働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

3 指導にあたって

(1) 学習指導要領での位置づけ

- (4) 県内の伝統や文化、先人の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身につけることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (イ)地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身につけること。
- (イ)当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現すること。

(2) 児童について

	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない
社会の授業は好きですか	12	15	5	0
社会の授業で「わかった!」「できた!」と感じていますか	9	18	5	0
自分の考えを書いたり表したりすることは好きですか	14	10	8	0
友達と話し合って課題を解決していくことは好きですか	15	12	4	1

(3) 研究主題に迫るための手立て

ア. 重点① 課題・問題を自分ごととして捉え、課題・問題解決に向かう探究的な学習の充実

課題設定

- ・学習対象や事象との出合わせ方、関わらせ方の工夫

児童1人1人が探究的な学習にしていけるためには、実感を伴う見学や体験がアンカーとなる。児童自らが問いながら進めていく展開にするために、まず、校区内を自分の足で歩き、用水が流れる場所に気付き、用水の役割について考えるきっかけとする。そして、見つけた事実を全体で広げ、それぞれが調べたい課題をつかむ。その際、単元のゴールにつなげ、「当時の人々はどのようにしてこんなに長い用水をつくったのか」の全体の問いに向かって、1人1人が調べていく探究的な課題をもたせる。本単元は「まる探(単元まるごと金沢探究スタイル)」と位置付け、前単元「残したいもの・伝えたいもの」の学習の流れで行い、探究学習をスタートさせる。

情報収集

- ・目的や意図に応じた情報収集ができる環境を整える

課題設定の場面で考えた、児童1人1人やグループが調べたい課題に合わせて、どんな資料やどんな情報が必要か考える時間を設ける。本単元では、用水のつくり方などを調べる際に、押野校区を流れる木呂川・十人川の上流に位置する七ヶ用水を用い、それぞれの課題に応じて、ゴールを意識しながら協働的に情報収集を行う。調べる際、枝権兵衛を中心人物とし、何を知りたいかを問いながら、調べる方法を選べるように示しておく。また、ゲストティーチャーを活用し、調べた中で出てきた疑問や未解決の内容について答えてもらうようにする。当時の歴史に詳しい白山ジオパーク学習支援員さんに出合わせることで、自分の生活と関連付けながらゴールに向かって考えを再構築し、整理・分析する活動につなげていく。

整理・分析

- ・1人1人が新たな視点で「なぜ？」を読み取る

他者の考えや収集した情報を比較・分析・関連付けたり、自分の考えを再構築したりする場面で、事実が曖昧な児童や、途中の段階で課題解決ができていない児童には、「たんタイム」の蓄積(オクリンクプラス)を自分や他者が収集したデータを随時見えるようにしておく。また、途中の段階で、自分の学び方をふり返り、調べた内容がゴールに合っているか、調べる視点に気付かせながら、学びの方向性や目的をはっきりさせながら進めていきたい。

まとめ・表現

- ・伝えるための具体的な方法を取捨選択してよりよい表現ができるようにする

活動の目的を、単元を通して意識させることで、整理・分析の場面でまとめた自分やグループの考えが効果的に伝わる表現方法を選ばせるようにしたい。本単元では、単元のゴールに合った一連のまとめができた時点で、相手を誰にするか、その相手にはどんな方法が効果的に伝わるか表現の仕方を考えるようにする。相手を先に選ばないことで、ゴールに向かって最後まで追究する姿を求めたい。整理・分析する中で見つけた内容に合わせて、表現方法と表現対象の相手を選択することで、最後まで意欲が継続されるものとする。

イ. 重点② 「わかった!」「できた!」を充実させるために読解力を育む

- ・情報収集の場面で資料の読み方(型)の習熟を図る

本単元は「まる探」と設定したことで、単元を通して児童にとって「分かった!」「できた!」となるようにしたい。課題設定場面で出てくる児童の様々な疑問「いつ・誰が・何のために・どのようにして」などを課題につなげ、情報収集に向かわせる。他者の考えを比較・分類・関連付けて整理することで、自分なりのまとめにつなげたい。また、本単元では、段階的に資料の読み方(型)を使って読み取るスピードや量の向上を図る。さらに、前時までに調べたことを、見方・考え方を働かせて解釈の質を高める時間を設ける。そして、自分でまとめ・表現できたことへ自信をもち、自分にできることを考えるきっかけにしていきたい。

4 単元計画 (全 11 時限)

学習の流れ

Rタイム

課題設定 ①②

- ・用水って何？役割は？押野校区の用水は？「七ヶ用水はどのような用水？」過去と現在
 - ・いったいどのように用水をつくったのか？
 - ・大変なことは？当時の人々の課題と願い
 - ・今も大切に使われている理由は？
 - ・これからも用水を残すために何か取組は？
- 予想
- ・歩いて見てきたら田んぼにつながっていたから水田をつくるのに必要だと思う
 - ・用水をつくるのに水が必要！どこから水を？
 - ・偉人がいた？みんなで協力したのだと思う
 - ・用水の役割は大切だから…
 - ・何か市で取組をしているのではないか

支援

- ・どの児童にも自分ごとの課題を見つけさせるために、木呂川付近を歩き、用水の役割や歴史などに気付かせる。

評価

- ・態①

情報収集 ①②③

- テーマの中で2つ目から調べたいな何で調べる？
- ・教科書やのび金の資料をもとに
 - ・現地の映像で
 - ・家の人やGTにインタビューで
 - ・図書館の本やインターネットで
- 他者参照や共同編集
- ・友達が調べた結果を見てみると、確かに用水を作るときには相当な人数が必要だった 苦労も伝わってきたけど実際どんなつくりかたをしたのか体験してみたいな
 - ・クラス全員で体験コーナーをしたい

支援

- ・自分で情報収集が困難な児童のために、掲示物やタブレット内で情報を共有する。

評価

- ・思①
- ・知①

《当時の人々はどのようにしてこんなに長い用水をつくったのか》
《わたしたちにできることは何か》 (単元終末)

整理・分析 ①②③(本時)④

- ・この時間は3つ目のテーマがはっきりしたけど(整理), 方向性をふり返ると, 課題と少しずれていたから(分析) もう一度2つ目についてくわしく調べる「学び方の調整」
- ・クラゲチャートで整理してみると, 昔の人の苦労がはっきりした きっと自分たちにもできることがあると思う「捉える段階」

例1

- ・昔は水が足りなくて大変だった 権兵衛は何とか大工事を完成させたけど, 工事の大変さ(もの)だけでなく, 村人(人)の協力(こと)にもとても苦労していた

例2

- ・大工事は人々の生活をよりよくしたいと願い, 多くの人の手で作りあげた さらに, 今も用水を使い続けられるのは, 地域の方の協力があるとのことだと思う 自分たちができることをまとめていきたい

支援

- ・情報収集したことを, どの児童もつなげて整理ができるように思考ツールなどを活用する。

評価

- ・知①
- ・知②
- ・思②

まとめ・表現 ①②

方法

- ・新聞 ・紙しばい
 - ・レポート ・ポスター
 - ・オクリンクプラス ・Chanva
- 誰に(相手意識)

- ・インタビューで教えてくれた方や校長先生に知らせたい
- ・用水の大切さについてお家の人に伝えたい

どのように(目的意識)

- ・用水のつくりかたを分かりやすくまとめるためには「道具の説明(写真や動画など)や手順」と「苦労や工夫」を必ず入れよう
- ・わたしたちができることを伝えるためには、「過去」と「現在」に分けて用水の利用の仕方と守るため(保全)の活動や考え方を入れよう

支援

- ・整理分析から分かったキーワードを中心にまとめることで, 表現する方法を選びやすくする。

評価

- ・思②
- ・知②

単元のまとめ(内容)

- ・水がいきわたる用水をつくるには, 先人の苦労や努力, 工夫, 願いがあった。
- ・これからも用水を守っていくために多くの人がかかわっている。
- ・自分たちも用水の学習を生かして今の用水を大切にしていきたい。

ふり回り「リフレクション」(学び方)

- ・わたしは情報収集を頑張りました。なぜかという、教科書や資料集だけでなく、自分でホームページから情報を集められたからです。
- ・整理・分析するのが難しかったけど、クラゲチャートにしてみたらとても分かりやすかったです。次の単元でも収集した情報を比較し、共通点を見つけるために使ってみようと思います。

5 本時の学習（整理・分析3時）

(1) **ねらい** 困難な大工事をやり遂げた枝権兵衛の苦心や苦労を整理・分析し、地域の人々の生活を豊かにしたいという強い気持ちを考え表現することができる。

(思考力・判断力・表現力等)

(2) 学習過程

時間	主な学習活動と児童の思考の流れ	支援・指導と評価
5	<p>《当時の人々はどのようにしてこんなに長い用水をつくったのか》</p> <p>1. 前時までの個人やグループの探究の状況を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰が？権兵衛「村人を幸せにする」と堅く決心をして、用水をつくるために雨の日も風の日も川淵を何年も歩いて調査していた どのように？村人が権兵衛の思いを聞いて協力した 4年以上かけて完成 道具はツルハシとノミでほる手作業・・・ 工事の辛さと進まない状況から村人は権兵衛に不満がたまる・・・ 「みんなのなぞタイム」では、「権兵衛がどのようにしてピンチを乗り越えたのかみんなでくわしく考えたい」という意見が出たよ 	<p>・自分の力で整理・分析ができない児童のために、他者の探究の状況を確認できる環境をつくり、意欲的に活動に入れるようにする</p>
20	<p>《権兵衛は どのようにしてピンチをのりこえていったのかな》</p> <p>2. 探究する（たんタイム）</p> <p>みんなの予想とこれまでの学習から分かっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼくだったら諦めそうだけど権兵衛の人柄（正しい行いをする人・我慢強い人・信じたことをやりとげる人）から諦めなかつただろう （のび金に）村人に工事の大切さを説いてまわったと書いてあった （のび金に）自分の財産を投げうって、費用の足しにしたと・・・ <p>資料（映像）から分かることは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 思いを理解した人は権兵衛のように説いて回ることに協力した 権兵衛は人数が少なくてもその後も先頭で働き続けた（こと） 他県から来たプロから賃金を上げろとおどされたときは↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「完成させるための大切な金じゃ！わしの後ろには何千人もの百姓がいる！！何が何でも工事を完成させるために無駄に使えない金だ」</p> </div>	<p>課題設定</p> <p>①自分やグループの課題に向かい、整理・分析ができるようにするために、個人やグループの課題リストと本時の位置付けを掲示する</p> <p>整理・分析</p> <p>①前時までの自分と他者のたんタイムの蓄積が分かるようにするために、オクリンクプラスのボードをいつでも閲覧できるようにする</p>
10	<p>3. 整理・分析する</p> <ul style="list-style-type: none"> 権兵衛の完成させる強い思いがあったから少しずつ伝わった 少しでも水争い「当時の世の中の課題」をなくすために、女性も協力するようになった 「なぞタイム」工事をやり遂げて権兵衛や村人たちの願いは叶ったか 当時の村人と権兵衛の生活を豊かにしたいという願いが一致していたから再び作業に取り組んだ「当時の人々の願い」 あなぐり工事は権兵衛の信念がかんつうさせた 	
3	<p>4. まとめる（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> 権兵衛は当時の人々の生活のために信念をもって行動していた 権兵衛のはたらきで当時の生活が向上した 	
7	<p>5. ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 捉える段階で自分なりに整理することができた（学び方） 自分には気付かなかつた権兵衛の思いをグループのおかげで気付けたからこれからもみんなの思いを知りたい（学び方） 自分の財産まで投げだして当時の人々のために行動した権兵衛の思いを今の私たちが大切にしていきたい（内容） これからの用水を守っていくのは自分たちだから、何かできることを考えていきたい（内容） 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>思・判・表</p> <p>資料から枝権兵衛の苦心・苦労などを読み取り、考えたことを表現している。 （ノートやワークシート、オクリンクプラス）</p> </div>

6. 成果について

(重点①…①, 重点②…②, その他…◆)

学習活動	児童の様子 や 効果的な手立て・工夫	
1	前時までの探究の状況を掲示物やオクリンクプラスで確認できた	①
2	みんなのなぞタイムと設定したことで、協働的な学びを得る課題に向かえた	①
3	読み取る型を示すことで、資料を読み取るスピードが上がった	②
4		
5		
6	権兵衛の思いや考え方について自分ごとでふり返ることができた	◆

前小単元「残したいもの 伝えたいもの」の学習で行った「まる探」と同じ流れで本単元を展開したことで、単元の問い（単元を貫く学習問題）に対する自分の考え（仮説）をもとに、個人やグループで探究的な学習を進める展開にすることができた。本単元では、個別最適な学びの時間（個人のなぞ）と協働的な学びの時間（みんなのなぞ）を使い分けることで、それぞれの探究の状況を確認しながら、さらに考えたことや知りたいことをノートやタブレットで整理・分析し、自分のまとめにつなげることができた。



学習履歴の一部

また、検証資料として、動画をもとにワークシートを活用しながら、資料の読み方（型）を習熟させることで、個々の読み取るスピードが上がり、量も以前より向上した。

7. 課題について

(重点①…①, 重点②…②, その他…◆)

学習活動	改善に向けた課題	
1		
2		
3	探タイムとして、児童に委ねる時間が不十分	①
4	映像資料の見せ方（児童が知りたいことより教師が教えたことの方が先行）の吟味	②
5	探究スタイルの吟味	◆
6		

本単元では「まる探」として学習を進めてきたが、授業者の「探究スタイル」そのものの理解が不十分だったように感じる。事後研では、どんな授業が正解なのか、児童にどのくらい委ねるのかについて深く考えさせられた。本時は、「みんなのなぞタイム」として、見えていないことが見えるようになる社会認識をつかませることをねらいとして展開したが、映像資料には、難しい用語が多く、読み取りが浅い児童が多くいたことを見取ったため、教師の出場が多くなった。結果として、教師が教えたという気持ちが先行し、児童がはっきりさせたい・できるようになりたい気持ちが表出しにくい展開になった。また、先人の様々な苦心や努力についてはつかんだものの、生活の向上に貢献した事実をつかませるには至らなかった。1人1人の資質・能力をこれまで以上に見取り、指導・支援に生かすことが大切であることを改めて学んだ。今後は、探究する武器となる「情報を収集する・読み取る・まとめる」を身につけさせ、これまで以上に、児童が強い問題意識をもって探究的な学習を展開できるようにしていきたい。

第5学年2組 社会科学学習指導案

1 単元名 工業生産を支える運輸と貿易「ほん探編」

2 目標と評価規準

我が国の工業生産について、輸送網（交通網）の広がり、外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現することを通して運輸や貿易は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

- 【 知・技 】 ①交通網の広がり、外国との関わりなどについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、貿易や運輸の様子を理解している。
②調べたことを表や白地図、文などにまとめ、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解している。
- 【 思・判・表 】 ①輸送網の広がり、外国との関わりなどに着目して、問いを見出し、運輸や貿易の様子について考え、表現している。
②工業生産と貿易や運輸の働きを関連付けて運輸や貿易が工業生産に果たす役割を考え、適切に表現している。
- 【 態度 】 ①工業生産における貿易や運輸について、学習問題や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

3 指導にあたって

(1) 学習指導要領での位置づけ

- (3) 我が国の工業生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ウ) 貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。
- (エ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ウ) 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。

(2) 児童について

	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない
社会科の授業は好きですか	11	14	6	0
社会科の授業で「わかった!」「できた!」と感じていますか	17	9	5	0
自分の考えを書いたり表したりすることは好きですか	8	13	8	2
友達と話し合って課題を解決していくことは好きですか	26	2	3	0

(3) 研究主題に迫るための手立て

ア. 重点① 課題・問題を自分ごととして捉え、課題・問題解決に向かう探究的な学習の充実

課題設定

- ・前時の学習を生かし、学習の見通しをもつための工夫

本時では、前時で学習した輸出の特色に対して、輸入にはどのような特色があるかを学習するとともに、工業生産における輸入の必要性について捉えさせたい。そのため、2022年の輸入額が輸出額を約20兆円も上回っていることを示し、疑問を出し合うなかで〈どうして日本は118兆円も輸入しているのか〉という課題を児童が設定できるようにする。

また、「どんな国からどんなものを多く買っているか」という予想をしてから調べる活動に入ることで、視点をもって学習に向かうことができると考える。

情報収集

- ・目的や意図に応じた情報収集ができる環境を整える

情報収集に入る前に、どんな資料があれば、日本の輸入の特色が分かりそうか問う。このことにより児童は、前時で教科書36ページの「**1**主な輸出品の輸出相手国」の図と、37ページの「**2**主な輸出品の取りあつかい額のわりあいの変化」の帯グラフで調べた経験を生かし、同じような資料があれば分かる見通しをもつことができるであろう。

整理・分析

- ・収集した情報を、比較・分類・関連付けるための工夫

本時では、資料を調べることを通して、世界中から燃料や原材料などの資源にくわえ、機械類を多く輸入していることに気づくであろう。全体交流を行い、それらの知識の土台をそろえる。その上で、「輸入は本当に必要だったかな」と問う。そのことにより、前時で学習した輸出の特色と関連付け、日本が、輸入した資源を使って工業製品を生産し輸出していることに気づく児童が出てくると考える。その考えを広げることを通して、輸出と輸入を結びつけられる児童を増やし、輸入することが日本の工業生産やわたしたちの生活を支えていることに気づかせたい。

まとめ・表現

- ・単元を通じた学びにつなげる工夫

調べて分かったことを学習問題である《運輸や貿易は、日本の工業生産をどのように支えているのか》につなげられるように、ふりかえりの場面で、あらためて「輸入ができなかったら日本の工業生産はどうなっているかな」という声かけを行う。このことにより、燃料や原材料を輸入することが日本の工業生産を支えているということを児童が実感できると考える。また、燃料や原材料を輸入に頼っていることに不安を感じる児童がいるはずであることから、新たな問いを生み出し、次時の学習につなげることができるであろう。

イ. 重点② 「わかった!」「できた!」を充実させるために読解力を育む

- ・いろいろな情報を正しく読み取るための工夫

前時では、教科書の「**1**主な輸出品の輸出相手国」の図と、「**2**主な輸出品の取りあつかい額のわりあいの変化」の帯グラフを用いて、日本の輸出の特色について、どのような国に、どのような物を売っているかを調べる。ここで、相手国や品目等、推移など、図や帯グラフの読み取り方を入念におさえる。そのことにより、本時では、同じ形式である、「**1**主な輸入品の輸入相手国」の図と、「**2**主な輸入品の取りあつかい額のわりあいの変化」の帯グラフを自分の力で読み取りやすくできると考える。

- ・「なぜ?」を読み取るための工夫

輸入品目に資源と機械類が多いことをおさえたあと、機械類を輸出しているのに、輸入品目でも機械類が多いことに疑問をもつであろう。その疑問を全体に広めることで、貿易の特色について、輸出と輸入を関連付けて考えることができる児童が増えると考えられる。

4 単元計画（全6時限）

	主な学習内容	評価
課題設定	<p>① <製品はどのように届いていたかな></p> <p>身の回りの工業製品は、運輸や貿易の働きによってわたしたちのもとに届いているから、運輸や貿易が日本の工業生産を支えているのではないかな。どのように支えているのかわしく調べたいな。</p> <p>学習問題</p> <p>運輸や貿易は、日本の工業生産をどのように支えているのかな</p> <p>学習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運輸の手段 2 どのような国にどのようなものを輸出しているのか 3 どのような国からどのようなものを輸入しているのか 4 問題点や課題 5 まとめる 	思① 態①
	<p>① <工場で作られた工業製品はどのように運ばれているのかな></p> <p>工業製品は、製品の種類や量、輸送する場所によって、トラックや鉄道、船、飛行機などを使い分けて輸送されている。</p>	知①
R タイム	<p>② <日本はどのような国にどのようなものを輸出しているのかな></p> <p>日本は、世界中に高い技術で生産した製品を輸出している。現地生産も増えている。</p>	知①
追究	<p>③ <どうして日本は118兆円も輸入しているのか>・・・本時（ほん探）</p> <p>日本は、世界中から工業生産に必要な燃料や原材料を輸入し、完成した製品を輸出していた。また、国内では作れない物や国内よりも安く作れる機械類なども輸入していた。118兆円も輸入していたのは、工業生産やわたしたちの生活になくはならないものだからだった。</p>	思②
	<p>④ <資源を多く輸入している日本の取り組みは></p> <p>日本は、世界との結びつきを大切にしながら再生可能エネルギーの開発などの新たな取り組みをする必要がある。</p>	思①
まとめ	<p>①<運輸や貿易は、日本の工業生産をどのように支えていたかな></p> <p>運輸や貿易は、工業製品を各地に届けたり、日本の工業生産に必要な原材料を確保したりするなど、日本の工業生産にとって重要な役割を果たしている。</p>	知② 思②

5 本時の学習（追究3時）

(1) ねらい 輸入が、わたしたちの生活や工業生産において、重要な役割を果たしていることを表現することができる。(思考力・判断力・表現力等)

(2) 学習過程

時間	主な学習活動と児童の思考の流れ	支援・指導と評価
35	<p>1. 探究する（たんタイム）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本は集積回路などの精密な機械類を多く輸出していたんだね 2022年の輸入額は輸出額より20兆円も多いよ そんなに輸入したら赤字だよ どうしてそんなに輸入しているのかな そんなに輸入が必要な 前回と同じように、輸入相手国と輸入品目が分かる図をみたいな 輸入品目はどのように変化してきたのか調べたいよ 食料品は輸入に頼っているから、一番多いのではないかな </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 石油、石炭、天然ガス、鉄鉱石はほとんど輸入しているな サウジアラビアやアラブ首長国連邦から石油を多く輸入しているね 石油は工業生産の燃料になるんだ 石油はペットボトルやナイロンの原料にもなるんだっけ 燃料と同じくらい機械類が多いよ オーストラリアやブラジルから鉄鉱石を輸入しているね </div> </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>＜どうして日本は118兆円も輸入しているのかな＞</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どこからどのようなものを輸入していたかな 日本は世界中から燃料や原材料などを輸入していた ○輸入は本当に必要だったかな 日本は資源を輸入し、製品を輸出しているから工業生産に必要な 輸出でも機械類が多かったけど、輸入でも機械類が多いのはなぜかな 日本よりも安く作れるものが輸入されているんだ わたしたちの生活にとっても輸入はなくてはならないね </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本は、世界中から輸入をしていた 工業生産に必要な燃料や原材料を輸入していた 機械類などの製品にして輸出する加工貿易を行っているから、輸入が欠かせないんだ 国内では作れない物や国内よりも安く作れる機械類なども輸入していた </div> </div>	<p>課題設定</p> <p>①問いをもたせられるように、2022年の輸入額が輸出額よりも20兆円多いことを示す</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人では調べるのが難しい児童の助けになるように、グループで調べるか個人で調べるかを選ぶようにする 石油の用途が分かりやすくなるように、教科書26ページの資料を事前に扱い、既習掲示しておく <p>整理・分析</p> <p>②輸入の特色を輸出と比較して考えやすくするために、前時の輸出品目と主な輸出相手国の図や輸出品目の推移の帯グラフを掲示しておく</p> <p>①全員が問いをもてるように、全体交流をして情報収集した輸入品目・相手国等の情報を整理する</p> <p>②輸入でも輸出でも機械類の品目が多いことに気づいた児童の疑問を全体に広めるようにする</p> <p>まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ふりかえりで、単元を通して考えられるように、学習問題である「工業生産」と結びつけた声かけをする
4	<p>2. まとめる（例）</p> <p>日本は、世界中から工業生産に必要な燃料や原材料を輸入し、完成した製品を輸出していた。また、国内では作れない物や国内よりも安く作れる機械類なども輸入していた。118兆円も輸入していたのは、工業生産やわたしたちの生活になくてはならないものだからだった。</p>	
6	<p>3. ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 貿易が日本の工業生産になくてはならないものだとわかった 資源が輸入できなくなったら日本の工業はどうなるのかな 	<p>思・判・表</p> <p>輸入が、わたしたちの生活や工業生産において、重要な役割を果たしていることを表現している。(ノート)</p>

6. 成果について

(重点①…①, 重点②…②, その他…◆)

学習活動	児童の様子 や 効果的な手立て・工夫	
1	課題設定で、「自分ごと」にする資料提示 情報収集で、自分で読解できるようにする手立て	① ②
	情報収集したことを、解釈につなげる手立て	②
2		
3		

課題設定の場面では、輸入総額が、輸出総額よりも20兆円も多い118兆円にもものぼることを示すことで、児童から「赤字になっている」「どうしてそんなに輸入しているのか」「どうしてそこまで輸入する必要があるのか」という発言をひきだし、〈どうして日本は118兆円も輸入しているのか〉という課題を設定した。そのことにより、児童が「なぜ」という疑問から「自分ごと」で「調べたい!」という思いをもち、「どこから輸入しているのか」「どんな物を輸入しているのか」という解決につながる材料を自分から考えることにつながった。

情報収集の場面では、本時で扱う「主な輸入相手国」「主な輸入品目」の資料を自分たちの力で読解する力を付けるために、前時で「主な輸出相手国」「主な輸出品目」の読解のしかたをていねいにおさえ、本時の板書にも、比較できるように掲示しておいた。そのことにより、「1番は」などの視点を持ち、自分たちで情報収集する力が付いた。

また、収集した具体的な品目などの情報から「どのような物」「どのような国」という解釈につなげるために、机間巡視で「つまり」「Lv.2」という声かけをおこない、自分たちで「石油」「鉄鉱石」などの具体的情報から「資源」という解釈につなげることができた。

7. 課題について

(重点①…①, 重点②…②, その他…◆)

学習活動	改善に向けた課題		
1			
2	調べたことを課題解決につなげる手立て 輸入が生活に不可欠なことを実感する手立て	① ①	まとめる場面での教師の出場 ①
3			

情報収集では「どのような国から」「どのような物」を輸入しているのかを調べ、考えることを通して「どうして日本が118兆円も輸入しているのか」という課題を解決させようとした。しかし、資料と課題が離れていたことで、教師が出て、一斉交流をおこなったが、思考が課題解決まで向かわなかった。情報収集の段階から、課題までを意識した声かけをするべきであった。

また、わたしたちの生活を輸入が支えていることを実感させるために、本時の終末場面では、教室のテレビやクロムブックなどの機械類に加え、身につけている物が外国産であることを示したり、児童の持ち物の産地を調べさせたりした。しかし、思いのほか児童の持ち物から輸入品が見つからず、輸入の不可欠さを実感されなかった。輸入品目の中でも多い石油に着目し、具体的な使い道を示し、プラスチックやペットボトルなど、生活に不可欠な製品になることに気づかせるなどの手立ても考えられた。

今後は、課題解決までを児童自身が見通すことができる情報収集・整理分析をできるようにすること、児童自身の調べを補う、実感を持たせる手立てで教師が出ることを意識して実践していきたい。

第6学年3組 国語科学習指導案

- 1 **単元名** 作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう「ほん探編」
やまなし／【資料イーハトーヴの夢】 補助資料：雨ニモマケズ

2 目標と評価規準

- 文章の構成や展開，文章の種類とその特徴について理解することができる。(知 (1) カ)
- 比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知 (1) ク)
- 物語の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすることができる。(思C (1) エ)
- 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめることができる。(思C (1) オ)
- 言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

- 【 知・技 】①話の構成や展開，話の種類とその特徴について理解している。(知 (1) カ)
②比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(知 (1) ク)

- 【思・判・表】①「読むこと」において，物語の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。(思 (1) エ)
②「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめている。(思 (1) オ)

- 【 態 度 】①粘り強く物語の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりし，学習の見通しをもって作品世界について考えたことを書き，伝え合おうとしている。

3 指導にあたって

(1) 学習指導要領での位置づけ

- 1 [知識及び技能]
- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- カ 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。
 - ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
- 2 [思考力・判断力・表現力等]
- C 読むこと
- (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。
 - オ 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。

(2) 児童について

	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない
国語の授業は好きですか。	6	15	5	0
国語の授業で「わかった!」「できた!」と感じていますか。	10	13	3	0
自分の考えを書いたり表したりすることは好きですか。	10	8	6	2
友達と話し合って課題を解決していくことは好きですか。	9	13	3	1
自ら課題や問いをもち，解決しようとしていますか。	10	6	9	1

(3) 研究主題に迫るための手立て

ア. 重点① 課題・問題を自分ごととして捉え、課題・問題解決に向かう探究的な学習の充実

課題設定

- ・学習対象や事象との出会わせ方、関わらせ方の工夫

本単元に入る前にGTを招聘して、宮沢賢治の世界を紹介していただく機会を設ける。宮沢賢治の物語をいくつか紹介することで、この物語を書いた宮沢賢治はどんな人物なのだろう、という不思議や疑問を感じながら、児童の読みたい、学習していきたい意欲を高められると考える。

本時においては、自分ならこの物語にどんな題名をつけるのかと問うことで、他にも題名がつけられそうなのに、なぜ宮沢賢治は題名を「やまなし」にしたのかと疑問をもたせ、宮沢賢治の生き方や考え方と照らし合わせながら、児童の考えたい意欲を高めたい。

情報収集

- ・目的や意図に応じた情報収集ができる環境を整える

「やまなし」に込められた宮沢賢治の思いや願いを考えるためには、賢治の生き方や考え方を理解すると深く考えることができる。そこで、資料「イーハトーヴの夢」と補助資料「雨ニモマケズ」に書かれている出来事や言動から、賢治の思いや願いを丁寧に理解させたい。また、本時の学習では既習を見られる場を設け、自ら課題を探究できるような環境を整えたい。

さらに、並行読書を通して「やまなし」だけではなく、他の作品にも思いや願いが込められていることにも気付かせたい。並行読書の作品としては、賢治の思いが強く反映されていると感じる「よだかの星」「ゼロ弾きのゴーシュ」「グスコブドリの伝記」「黄いろのトマト」「雪わたり」「双子の星」「なめとこ山の熊」「いちょうの実」の中から2冊以上選んで読み、作品に込められた思いについて考えをまとめられるようにしていく。

整理・分析

- ・収集した情報を、比較・分類・関連付けるための工夫

宮沢賢治はどんな生き方や考え方をした人だったのかを考える際に、「イーハトーヴの夢」と「雨ニモマケズ」を読み取って考える。どんな人だったのかと時系列で考え、交流していく中で「自然」「優しさ」「思いやり」「理想と現実」「生と死」「岩手が好き」などのような観点到に絞られていくだろう。その観点を念頭に置きながら、「やまなし」の二つの幻灯を読み比べる。賢治の生き方や考え方と重ねることによって、作品に込められた思いに迫り、考えをまとめられるようにしていく。

まとめ・表現

- ・自己の成長が自覚できるための表現活動の工夫

本単元に入る前に、自分はこれまでどのようなことを考え、行動して過ごしてきたのかを知るためのアンケートを実施し、それを知った上で本単元に入る。本単元を学習していく中で、宮沢賢治の生き方や考え方を知り、いろいろな物語を通して思いや願いを考えまとめていく。それらを受け止めて、これからの自分はどのように歩んでいきたいのかを考えさせたい。

また、単元の導入時に題名から想像することや初めの感想、疑問をもつことを大切に、物語にこめた思いや願いを学習することを通して、初めにもった考えがどのように変化したり深化したりしたのかを振り返りながら、自己の変容に気付かせたい。

イ. 重点② 「わかった!」「できた!」を充実させるために読解力を育む

- ・2つ以上の情報を比べたり関連付けたりして読み取る活動の設定

宮沢賢治はどんな生き方や考え方をした人だったのかを考える際に、資料「イーハトーヴの夢」と補助資料「雨ニモマケズ」を関連付けて出来事や言動を読み取り、共通点を見つけながら賢治の人柄を読み取っていく。また、「やまなし」を読む際には、上記の2つの資料と物語を関連付けられるように、一目で見られるシートを準備し、活用できるようにする。資料から考えた賢治の生き方や考え方が、「やまなし」の情景や様子など、どの文章や言葉に表れているのか、線を引いたり、言葉を補ったりしながら、読み取れるようにしていきたい。

4 単元計画（全9時限）

次	主な学習内容	評価
課題設定	<p>① <どんな学習をするのか></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合う学習をする。</p> </div> <p>学習問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作品の世界を想像し、宮沢賢治が作品にこめた思いを考えて、友だちと伝え合おう</p> </div> <p>学習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 宮沢賢治の生き方や考え方を読み取る 2 五月の内容を読み取り、筆者の伝えなかったことを考える 3 十二月の内容を読み取り、筆者の伝えなかったことを考える 4 題名の「やまなし」について考える 5 「やまなし」にこめた思いをまとめ、自分の考えを書く 6 やまなし以外の物語について、筆者のこめた思いや自分の考えを書く 7 友だちと作品について話し合い、宮沢賢治作品の世界を味わう 8 単元のまとめ 	<p>評価 態①</p>
	R タイム	<p>① <宮沢賢治はどんな生き方や考え方をした人だったのか></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>宮沢賢治は、動物も植物も自然を大切にしたい人、自分のことよりも人のために行動した人、理想を求めて行動した人、生と死を考えて生きた人。</p> </div>
追究	<p>② <五月はどのような世界で、賢治が伝えなかったことは></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>五月は、明るい表現や暗い表現があることから、楽しく暮らしていても、いつ何が起きるか分からない自分たちが生きているこの現実の世界のこわさを表している。楽しいこともあるけれど、こわいこともあることを伝えている。</p> </div>	<p>思① 知②</p>
	<p>③ <十二月はどのような世界で、賢治が伝えなかったことは></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>十二月は明るい表現が多いことから、賢治が理想とした、家族の誰もが安心して暮らせる温かい、思いやりがあふれる世界を表している。誰もが安心して暮らせる世の中をつくりたい、つくってほしいという願いを伝えている。</p> </div>	<p>思① 知②</p>
	<p>④ <なぜ賢治は「やまなし」を題名にしたのか>・・・本時</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜ賢治が「やまなし」を題名にしたのかというと、やまなしは十二月にしか出てきていないけれど、やまなしは賢治の夢や理想を表していて、安心して暮らせる世の中になってほしいという思いをやまなしにこめたと思ったからです。かきの親子が、やまなしをおどるようにして追いかけていく姿は、賢治が夢や希望を追いかける姿を表していると思いました。</p> </div> <p>⑤ <賢治が「やまなし」にこめた思いや願いをまとめ、自分の考えを書こう></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>賢治は、「やまなし」の物語を通して、今自分たちが生きている世界は、どんなに楽しく暮らしていても、いつ死ぬのか、病気になるのか、災害が起きるのか分からないこわい世界であることを五月の物語にこめていると思う。その反対に十二月は、賢治が理想とした世界であり、誰もが安心してお互いを思いやる、明日への希望がある明るい世界を表していると思う。自分のこれまでの暮らしを考えると、今生きていることが当たり前になっている。家族や友達、クラスメートが当たり前について、当たり前で毎日過ごしている。「やまなし」を読んで、その日常は当たり前ではないから、感謝して1日1日を大切にして過ごしていきたいと思った。</p> </div>	<p>思② 思②</p>

まとめる	① <やまなし以外の作品を読み、作品にこめられた思いや願いを考え、自分の考えを書こう>	思②
	「ゼロ弾きのゴーシュ」の物語からは、技術の向上だけでなく、人間としての成長が大切であること、他の人とかかわる中で優しさや思いやる心が大切であることがこの作品にこめられていると思う。自分はサッカーを習っているが、今まではサッカーの技術さえ向上できれば良いと思っていた。しかし、プロサッカー選手を見てみると、技術が高いだけでなく、人としてもチームメイトを思いやる行動があったり、ファンにも優しく丁寧に対応しているところがあったりと、誰にでも優しく接することができるようになりたいと思った。	態① 思② 態①
	② <書いた文章を読み合い、作品の世界を味わおう>	
	③ <単元全体のふり返りをし、学習のまとめをしよう>	

5 本時の学習（追究4時）

（1）ねらい

これまでの学習を生かし、なぜ「やまなし」が題名なのかを考えるを通して、宮沢賢治が「やまなし」にこめた思いや願いについて考えることができる。（思考力・判断力・表現力等）

（2）学習過程

時間	主な学習活動と児童の思考の流れ	支援・指導と評価
35	<p>1. 探究する（たんタイム）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分だったら、かこの兄弟や親子のやりとりで物語が進んでいるので、「かこの世界」にします 私だったら、小さな谷川での物語で、かにやかかわせみ、やまなしなど小さな世界での話だから、「小さな自然」にします ぼくだったら、かこの家族が中心となって物語が進むので「かこの家族」にします </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 五月と十二月の内容をもう一度読んで考えてみよう イーハトーヴの夢と雨ニモマケズをふり返って賢治の思いや願いを確認してみよう 他の人はどんなことを考えているか、交流したい </div> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><なぜ賢治は「やまなし」を題名にしたのか></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 五月のこわい世界よりも、十二月の平和な世界のことを伝えたかったのではないかと思う。だから、題名を「やまなし」にしたんだと思う 五月は、「かわせみ」がいていつおそわれるのかわからない世界で、それと比べて十二月は「やまなし」が安心を与えていると思う </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 賢治は、全ての生き物が安心して暮らせる世界を理想としていた。十二月にだけ出てくる「やまなし」はいいにおいをさせて、かこの親子に安心を与えていることから、題名を「やまなし」にしたんだと思う 「かわせみ」と「やまなし」を比べて、賢治の理想は、安心して暮らせる世の中にしたことだから、安心を与えた「やまなし」にした </div> </div>	<p>課題設定</p> <p>① なぜ「やまなし」が題名なのかを考えたい意欲を高めるために、自分ならこの物語にどんな題名をつけるのか問いかける</p> <p>情報収集</p> <p>① 課題を探究できるように、既習したことを自由に見られる場を設ける</p> <p>整理・分析</p> <p>① 考えがもてない児童には、二つの幻灯はどのような内容だったのかや2つの資料から読み取った賢治の生き方・考え方についてふり返らせ、関連付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、ペアやグループでの話し合いの活動を選択できるようにする <p>まとめ・表現</p> <p>① 賢治の生き方や考え方と、「やまなし」と重なるところはどこかと問う</p>

7	<p>2. まとめる</p> <p>なぜ賢治が「やまなし」を題名にしたのかというと、やまなしは十二月にしか出てきていないけれど、やまなしは賢治の夢や理想を表していて、安心して暮らせる世の中になってほしいという思いをやまなしにこめたと思ったからです。かのに親子が、やまなしをおどるようにして追いかけていく姿は、賢治が夢や希望を追いかける姿を表していると思いました。</p>	<p>②物語と2つの資料を一目で見られるシートを使用することで、物語にこめられた賢治の思いや考えを関連付けやすくする</p>
3	<p>3. ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと交流して、やまなしが題名になった理由を考えることができました。自分が思いつかないことも、友だちと話すことで広がりました。 ・五月と十二月とを比べると、なぜやまなしを題名にしたのかが分かりました。十二月では幸せで、安心な世の中になってほしいという思いを賢治はこめたのかなと思いました。 ・イーハトーヴの夢と物語をつなげて読むことで、やまなしが題名になった理由を考えることができました。かのに兄弟のできごとは、賢治の人生を表していて、やまなしは賢治の夢や理想を表していると思いました。 	<p>思・判・表</p> <p>これまでの学習を生かし、なぜ「やまなし」が題名なのかを考えることを通して、宮沢賢治が「やまなし」にこめた思いや願いについて考えることができる。 (観察・ノート・クロムブック)</p>

6. 成果について

(重点①…①, 重点②…②, その他…◆)

学習活動	児童の様子 や 効果的な手立て・工夫	
1	課題に対して考えたい意欲を高めることができた。	①
1	前時までの掲示物やオクリンクに貯めた自分の考えを関連付けたり、比べたりして考えをもつことができた。(情報収集ができる環境を整える)	①
1	自分の考えを深めるために、様々な児童と交流することができた。	②
2		
3		

これまで積み重ねてきた学習をふり返り、前時に「この作品に題名をつけるとしたら、自分だったら何にする」と投げかけたことで、「自分だったら」という考えをもちながら、「なぜ賢治はやまなしを題名にしたのか」と考えたい意欲を高めることができた。全員の考えをオクリンクの集計機能を活用し、6年3組だったらこのような題名にすると提示したことも有効であった。

本時までの授業で、考えやまとめ、ふり返りを全てオクリンクに保存し、いつでも見られるようにした。本時で考えをもつ際には、掲示物(5月, 12月, イーハトープの夢, 雨ニモマケズ)やこれまでの自分の考えと関連付けたり、比べたりしながら課題に迫る姿が見られた。情報収集ができる学習環境を整える大切さを改めて感じた。

たんタイムでは、初めの10分程度は自分で考えをもつことを全員が選び黙々と書いていたが、自然とペアやグループでの話し合いが始まり、他の児童と交流する姿も見られた。これまでの授業でも、交流することで自分の考えがはっきりした、深めることができた、その良さを感じている様子であった。本時のふり返りでも「〇〇さんの考えを聞いて自分の考えがまとまった。」「〇〇さんの考えを聞いて納得した。」など、児童たちは交流することは考えを深めたり、広げたりするために有効であると実感している。

7. 課題について

(重点①…①, 重点②…②, その他…◆)

学習活動	改善に向けた課題	
1	考えが広まるような話し合いの型の提示	①
1	全文シートをもっと活用し、叙述から根拠を明らかにして考えをもつ	②
2		
3	考えの変容を見取るためのふり返りのしかたを提示する	③

本時では、子どもたち同士で交流し、話し合いを行っていたが、そこでどのくらい考えが深まっていたのか疑問であった。考えが深まるような話し合いの型を提示し、常に使わせていくのがよいとご意見をいただいた。例えば「どこに書いてあるの」「どこからそう思ったの」「どうしてそう考えたの」などの質問をすることで、話す方も聞く方も根拠を明らかにしながら考えを深掘りでき、それが読解力につながると感じた。同様に、全文シートをもっと活用し、考えの根拠は叙述のどこからきているのかをはっきりさせる必要があった。線を引いて書き込んだり、付箋を活用したりと、ノート代わりに使うことで、根拠をはっきりさせて考えをもつことができるとアドバイスをいただいた。

ふり返りの場面では、考えの変容に気づかせるためのしかたを提示することも必要だと感じた。初めに考えていたことと、交流や話し合いを通してどう変化したのか、どうして変化したのかをふり返らせることで、より自分と向き合い、自分事として考えられると思った。

探究的な学習の子ども姿は、いかに試行錯誤しているか、いかに4つ(課題設定, 情報収集, 整理・分析, まとめ・表現)の流れを何度も行ったり来たりしているかが大切であると学んだ。子どもたち自らが動き出し、深い学びになる授業をこれからも研究していきたい。

Ⅲまとめ

1 研究の成果

重点1	問題を自分ごととして捉え、課題・問題解決に向かう探究的な学習の充実
-----	-----------------------------------

問題を自分ごととして捉えるための導入の工夫

児童が問題を自分ごととして捉えるためには、課題設定の場面での学習対象との出合わせ方が大きくかわることを、今年度の授業実践を通して実感している。児童にとって身近な話題を取り上げたり、体験的な活動を取り入れたりすること、ゲストティーチャーを招いた授業等では、もっと知りたい、解決していきたいという思いをしっかりともたせることができた。また、単元を貫く課題を十分に共有し、見通しをもたせることで、児童の意欲を高めることにもつながった。児童の心に火をつけるためにはどんなしかけが有効か、児童の興味関心に触れるよう、今後も教材研究を行っていきたい。

児童との「たんタイム」の共有

探究的な学習の時間を「たんタイム」とネーミングし、児童と共通理解を図った。また、①課題設定②情報収集③整理・分析④まとめ・表現、この探究の4場面はカレーライス の作り方に例え、①材料や作り方を考える②材料を集める③味付けをして煮込む④盛り付ける、という分かりやすい表現で理解を促した。このように伝えたことで、児童は探究的な学習に対して難しいイメージをもつことなく、「たんタイム」が始まると、友だちと進んで交流しようと動き出す姿も見られるようになった。探究的な学習の方法やよさを児童と共有することは、新しい学習スタイルにチャレンジする上で大切なことであったと実感している。

重点2	「わかった!」「できた!」を充実させるために読解力を育む
-----	------------------------------

型や、読み取りスキルの提示

読み取る型（分かること・考えられること）を示し読解のポイントをつかませることや、活動の流れをパターン化し、少しずつレベルアップしながら繰り返しの活動を行う中で、徐々に自分の力で読み取ったり文章を書いたりする姿が見られるようになった。低学年では、友だちの発言を繰り返して発言させることで、次第に考えを読み取れる児童も増えた。中高学年では、表やグラフから情報を読み取る活動が多くなる中で、まずは読み取り方を全体で確認し、土台を揃えられるようにした。事実を読み取るだけでなく、そこからの解釈の仕方についても同様に扱い、考えが広げられるように支援した。読解力を育むためには、まずは真似をしたり、読み取るための方法を理解したりすることが必要であると考え、今後も基本的なスキルの習得場面は大切にしていきたい。

2 研究の課題

重点1	問題を自分ごととして捉え、課題・問題解決に向かう探究的な学習の充実
-----	-----------------------------------

3：7を意識した教師の出場の吟味

授業では、教師と児童で授業を進める場面と、児童に委ねる場面を「3：7」の割合で設定することを「押野小スタイル」として定着できるよう研究を進めている。そこでは、3の場面での教師の効果的な出場が重要となる。授業の大部分を児童に委ねようとする中で、いかにねらいにせまることができるかは、ここでの教師の働きかけが左右するとも言える。しかし、実際には教師側の思いが先行し、結果的に出場が増えてしまうことも多いため、児童の思いや活動の流れに沿った出場について、もっと探っていかなければならない。

ねらいへの到達には、ある程度の意図的な道筋をつくっておくことも必要であろう。そのために、ワークシートの活用や、課題解決のヒントとなる資料提示、既習を確認できるアイテムの準備など、児童に委ねられる環境づくりにも努めていきたい。

児童一人ひとりの確かな見取り

探究的な学びの中で児童に力をつけていくためには、7の場面において、一人ひとりの進度やつまづきを見取り、支援していくことが重要である。「たんタイム」では、友だちと一緒に活動を進めることも自己選択できるため、どの児童もある程度理解しているように見えがちだが、一人ひとりの実態に応じた支援が欠かせない。たんタイム中の教師の振る舞いについて、どんな様子の児童に声を掛けに行くのか、何ができていればねらいに到達できたと言えるのか、明確な指標をもつことが必要である。

また、自己選択をさせる場面では、どんな友だちと一緒に考えたり交流したりするのか、目的に応じた相手の選び方にも課題が見られている。学級経営や学習規律を整えることは、探究的な学びを支える基盤となるため、学び合える学習集団を育てるために大切にしていきたい。

幅広い教科での探究的な学習の実践

今年度は探究1年目の実践であり、すべての教科で探究の要素を取り入れていくことは難しかった。しかしながら、単元や1時間の中のどこで「たんタイム」を行うことができそうか、教員それぞれが考えながら実践を積み重ねてきている。また、学年会を活用し、学年で揃えた取組も行ってきた。どの教科でどんな実践を行うことができたか、それぞれの実践を共有し、教科の幅を広げていきたいと考えている。

重点2	「わかった!」「できた!」を充実させるために読解力を育む
-----	------------------------------

各教科における読解力を捉える

今年度は、教員それぞれが異なる教科で実践を行っており、全てに共通した読解力の捉えがあるわけではなかった。よって、自分なりにその教科に応じた読解力を見出し手立てを講じてきたが、それが適切だったのかどうか、判断が難しいものとなった。新金沢型学校教育モデルには、Rタイムとして読解力育成につながる活動が位置付けられているため、それらを参考に計画は練っていくものの、すぐに身に付けさせられる力ではなく、評価することも容易ではない。しかしながら、本校の児童にとっては特に力をつけていきたい部分であり、今後も粘り強い取組が必要とされる。的確な助言を仰ぎながら、教員自身が学び続けていく必要がある。